



日本のゼロ金利政策とその転換

令和7年11月4日

黒田インターナショナルコンサルティング LLC

黒田 毅

日本のゼロ金利政策の裏は、膨大な国債の利息を抑えることであるならば、金利の引き上げは長期国債金利の上昇などを生むものである。

これらは各国の財政状況は、多々においてその危機的な現実を有することは、新たな金融危機などの可能性は存在すると考えます。

また日本において国家の借金に対してその返済のめどは、たつものではないはずです。また今後これら現状の国債の発行を続けるならば、金利の支払いさえできないはずです。

それら現実において、財政の危機的な状況に対して警鐘を得ることがないのは明らかに異常であり、それら現実への理解の共有は今日必ず要求されるものであると考えます。

これらは日本の金利政策が、蟻地獄につかまっているものであることは一つの真実であると考えます。

これらは健全な財政運営や、金利政策、為替政策や経済政策などの必要性は、その無策さから、独立国としての自己安全保障や、経済運営に対してその正しい理解を要求されるものであると考えます。

また国際情勢においても各国の財政状況は、今後その解決を求めるものであり、それら現実が世界経済の新たな現実をあたえることは予測できるものです。

これらはデジタル経済やデジタル社会への移行など、未来という新たな可能性に対してそれら現実には必ずしも、未来を約束するものでないことは理解されるべきかもしれません。

これらは政治が職免する新しい未来という現実には必ずしも理想を得るものでなく、混乱という新たな世界の再構築を求めるものかもしれません。

これらは生活における正しい準備は未来という現実に対する正しい選択であるといえるかもしれません。